

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370738

研究課題名(和文) 教職課程(英語)受講生のための言語知識教育プログラムの体系的構築

研究課題名(英文) Systematic construction of language knowledge education program for English teacher trainees

研究代表者

今井 隆夫 (IMAI, Takao)

愛知県立大学・外国語学部・非常勤講師

研究者番号：50257739

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、教職課程履修生が、英語を教える上で身につけておくべきと考えられる言語知識教育内容プログラムを構築し、以下の4点を明らかにした。(1)高校までに英語学習をある程度終了した中堅レベルの大学生(ボリューム層という意味で、大学生のプロフィールと言える)が母語話者の英語感覚を身に着けていない現状。(2)「感覚英文法」の明示的指導の効果。(3)学習者の比喩能力を活性化することで、学習者が既存の知識に関連づけて新たな内容を学ぶことができること。(4)感覚英文法の授業を学習者が、「価値があり」、「学ぶこと自体が楽しい」と感じる。

研究成果の概要(英文)：This study designed and developed an English knowledge program that is considered to be required to be learned by teacher trainees and the following four points were clarified: a) to verify that university students had not necessarily acquired native speaker intuition, often called Eigo no Kankaku; b) to demonstrate the utility of explicit instruction on Eigo no Kankaku by employing Image English Grammar; c) to demonstrate that it is possible to activate learners' analogical reasoning ability, allowing them to relate newly learnt knowledge to existing knowledge; and d) to demonstrate that Image English Grammar allows learning English to be perceived as valuable and interesting by learners

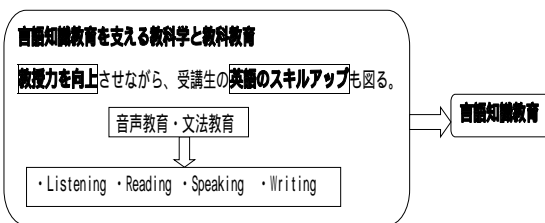
研究分野：認知言語学と英語教育・コミュニケーション論

キーワード：英語教育 認知言語学 学習英文法 アナロジー力 英語音声教育 英語の感覚

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の研究当初の背景は、「今後の国立の教員養成系大学学部の在り方について」(平成13年11月22日 国立の教員養成系大学学部の在り方に関する懇談会(報告))で、教員養成学部における教科専門科目と教科教育法(学)の今後の在り方に関して独自の専門性を構築することが謳われているのを受けて、本研究では、教員養成に特化した教科専門科目のプログラムの1つの形を構築することを試みることであった。

懇談会報告は、教員養成系大学が独自性を出す必要性を指摘した内容であるが、同様の必要性は、教職課程を持つ一般大学についてもあてはまる部分がある。つまり、教員免許取得に必要な教科学及び教科教育では、専門知識や英語のスキルアップと教授力向上をリンクして行うことが必要と考える。このような背景を受け、本研究では、教職課程(英語)における、教科専門及び教科教育法のプログラム開発を、教科学(英語学・言語コミュニケーション論・異文化論など)と教科教育学(英語教育学)を連携した形で行おうというものである。なお、専門分野を教科専門及び教科教育法へ還元するモデル全体としては、次のような大まかな設計図を考えた。



### 2. 研究の目的

本研究の目的は、従来文法教育と呼ばれていたものについて認知言語学的な言語観・コミュニケーション観に基づき、言語知識教育として再編することであった。英語教育現場では、文法重視からコミュニケーション重視へ振り子が振ったが、その反省として、再び文法教育の重要性が強調されてきている。しかし、新しい文法教育は、次に示すような言語知識教育と呼ぶにふさわしいものである必要があると考える。過去のモデルに逆戻りする性質のものではなく、認知言語学や機能主義言語学でも言われている「形と意味の対応関係」、「日本語と英語の事態認識の違い」に焦点を当てる。人が新しい物事を取り込み理解するシステムの基本、カテゴリー化の仕組みを意識する。前者は、既存の知識と関連させてアナログ的に理解するシステムであり、後者は、比喩能力の活用によって、似ているもの、関連性があるものを1つのカテゴリーに分類して整理することである。本研究では、研究代表者及び研究分担者が、各自の専門分野から、教職課程履修生が、英語を教える上で身につけておくべき言語知識教育のモデルを探索研究し、その効果を検証する

ものである。

### 3. 研究の方法

教職課程(英語)履修生の教授力と学生自身のスキルアップを同時に図るプログラムを構築するために、1年目~3年目は理論研究(文献研究、言語データの分析、母語話者を対象とした実験研究、英語力と教授力の養成に関するパイロット研究など)により、教職課程履修生のための教授力を高めながらスキルアップを行うプログラムを探索的に構築した。3年目~4年目は、作成したプログラムを教室での実践し、プログラムの効果を測定する実証研究へと進み、学会での研究発表、シンポジウムを行った。研究代表者が研究機関を移動した関係で、研究の進捗が全体に1年遅延する形となった。

### 4. 研究成果

本研究は、研究代表者及び研究分担者が、各自の専門分野から、教職課程履修生が、英語を教える上で身につけておくべき言語知識教育のモデルを探索研究し、その効果を教室での授業実践研究で検証するものであった。認知言語学や機能主義言語学でも言われている「形と意味の対応関係」、「日本語と英語の事態認識の違い」に焦点を当て、人が新しい物事を取り込み理解するシステムの基本とカテゴリー化の仕組みを意識したモデルの開発と検証を行った。

研究成果の1つ目は、英語学習者に英語母語話者が持つ英語感覚を身に付けさせることを目的に構築した「感覚英文法」のプログラムを用いて、言語表現の意味的動機付け(Linguistic Motivation)を教えることの効果について教室での実験授業及び調査の結果から検証した。「感覚英文法」とは、研究代表者の学習経験、授業実践、及び認知言語学の道具立てを参照して開発してきた学習英文法プログラム(今井2010)のことであり、説明が比喩的・アナログカルであるため、学習者の既存の知識に取り込みやすいことを特徴としている。Linguistic Motivationとは、言語の恣意性(arbitrariness)の反対の概念で、ある表現がなぜそのような表現になるのかの意味づけをすることであり、認知言語学の主要な道具立てである。具体的には、以下の4つの点について検証した。

(1) 高校までに英語学習をある程度終了した中堅レベルの大学生(ボリューム層という意味で、大学生のプロフィールと言える)が母語話者の英語感覚を身に付けていない現状を確かめた。

(2) 「感覚英文法」の明示的指導の効果について調べた。

(3) 学習者の比喩能力を活性化することで、学習者が既存の知識に関連づけて新たな内容を学ぶことができることを調べた。

(4) 感覚英文法の授業を学習者が、「価値があり」、「学ぶこと自体が楽しい」と感じ

ることを明らかにした。

2 つ目は、研究分担者の協力を得て、英語音声教育分野に関する理想的な教職課程履修生が知っておくべき知識として、(1)機能主義言語学及び語用論的視点から、音声文法の構築とその応用について考察を行った。従来の「英文法論」では、文脈を意識せずに、一応意味の通じる英文を構成する規則の習得に専念する傾向が強かったが、今回、発話を意識した文意の違いを文法の一部として学習するために、A Communicative Grammar of English を参考に、音声情報記述による practical grammar を検討した。

<引用文献>

今井 隆夫 (2010) 『イメージで捉える感覚英文法』 開拓社

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

Imai, T. (2016) The Effects of Explicit Instruction of “Image English Grammar for Communication” on Tertiary English Classes, *Journal of Annual Review of English Language Education in Japan*, 27, 査読有, pp.137-152.

今井隆夫 (2016) 「学習者の持つフレーム知識を活用したコミュニケーションのための感覚英文法：反意語を意識することで類似した2つの表現の意味を捉える」 『日本認知言語学会論文集』第16巻, 査読有, pp.433-439.

大森裕實・北尾泰幸・今井隆夫 (2016) 「大学言語教育観に適應する多元的学習英文法の新展開」 『ことばの世界』第8号, 愛知県立大学高等言語教育研究所, 査読無, pp.26-33

今井隆夫 (2015) 「英語学習における Cognitive Motivation Model: 母語話者の持つ英語感覚の学習を認知言語学の視点から考察」 山梨正明他編 『認知言語学論考12』 ひつじ書房, 査読有, pp.207-P259

大森裕實 (2015) 「音声英語文法構築への試み」 『応用英語音声学研究』中部応用言語学研究会, 査読有, pp.71-84

今井隆夫 (2014) 「認知言語学及び教科開発学の観点から言語教育におけるダイナミズムと多様性の扱いを考察」 『日本認知言語学会論文集』第14巻, 査読有, pp.553-559

Imai, T. (2014) ‘A Practice in the Classroom: How to Get Learners to Recognize Cognitive Motivation of Constructions’ 『中部地区英語教育学会紀要 第43号』, 査読有, pp.169-176

Imai, T. (2014) ‘Practice of Image English Grammar in the Classroom’ *Foreign*

*Language Education 2014 International Conference*, Institute of Foreign Language Education at Hankuk University of Foreign Studies, 査読有, pp.15-20.

今井隆夫 (2014) 「学習者の持つ認知能力の活用を基盤とする学習英文法」 『教科開発学論集: 2』 (愛知教育大学大学院・静岡大学大学院教育学研究科・共同教科開発学専攻, 査読有, pp.227-235

[学会発表](計10件)

今井隆夫 「英語感覚習得の実態と認知言語学を参照した指導法」 第17回日本認知言語学会全国大会, 明治大学中野キャンパス (東京都中野区) (2016.9.11)

大森裕實・北尾泰幸・今井隆夫 「言語研究の複眼的視点から考察する関係節の効果的学習法 (Effective Approaches to “Relative Clause” from Multiple Viewpoints of Language Studies)」 大学英語教育学会 (JACET) 第55回国際大会シンポジウム, 北星学園大学 (札幌市) (2016.9.2)

今井隆夫 「学習者の持つフレーム知識を活用したコミュニケーションのための感覚英文法：反意語を意識することで類似した2つの表現の意味を捉える」 第16回日本認知言語学会全国大会, 同志社大学 (京都府・京都市) (2015.9.13)

大森裕實・北尾泰幸・今井隆夫 『大学言語教育観に適應する多元的学習英文法の新展開』 JACET 国際大会2015, 鹿児島大学郡元キャンパス (鹿児島市郡元) (2015.8.30)

Imai, T. ‘Practice of Image Grammar for Communication in the Classroom.’ *Foreign Language Education 2014 International Conference*, Institute of Foreign Language Education at Hankuk University of Foreign Studies < invited speech > (Seoul, Korea) (2014.11.28)

Miki H. H. Bong. ‘Incorporation and Assessment of Transferable Skills’, *Foreign Language Education 2014 International Conference*, Institute of Foreign Language Education at Hankuk University of Foreign Studies < invited speech > (Seoul, Korea) (2014.11.28)

大森裕實・都築雅子・今井隆夫 『言語理論の学問知を生かした英語教育』 JACET 国際大会2014, 広島市立大学 (広島市) (2014.8.28)

今井隆夫 「認知言語学及び教科開発学の観点から言語教育におけるダイナミズムと多様性の扱いを考察」 第14回日本認知言語学会全国大会, 京都外国語大学 (京都府・京都市) (2013.9.22)

今井隆夫 「コミュニケーションのための感覚英文法の観点から、学習英文法を考

える」第39回全国英語教育学会北海道  
研究大会，北海学園大学（札幌市）  
（2013.8.10）

Imai, T(2013) 'A Practice in the Classroom:  
How to Get Learners to Recognize Cognitive  
Motivation of Constructions' The 43rd  
Annual Conference of the Chubu English  
Language Education Society, in Toyama.  
(2013.6.29)

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

今井 隆夫 (IMAI, Takao)  
愛知県立大学・外国語学部・非常勤講師  
研究者番号：50257739

### (2) 研究分担者

大森 裕實 (O' MORI, Yujitsu)  
愛知県立大学・外国語学部・教授  
研究者番号：00213877

奉 鉉京 (Bong, HyunKyung)  
信州大学・総合人間科学系・准教授  
研究者番号：50434593

### (3) 連携研究者

北尾 泰幸 (KITA0, Yasuyuki)  
愛知大学・法学部・教授  
研究者番号：90454313

都築 雅子 (TSUZUKI, Masako)  
中京大学・国際教養学部・教授

研究者番号：00227448

高橋 直子 (TAKAHASHI, Naoko)  
名古屋外国語大学・外国語学部・講師  
研究者番号：30601041

### (4) 研究協力者

安念 保昌 (ANNEN, Yasumasa)  
森 智水 (MORI, Chiemi)  
青山 英那 (AOYAMA, Ena)  
久野 綾子 (KUNO, Ayako)